

(5) Tullängsskolan (トレーランス高校)



図 20. エントランス

主任教員および各コースの教員、生徒と面会し、校内視察の後、主に主任教員に対しインタビュー調査を行った。ここは、約 1300 名の生徒と 300 名の教職員からなる近代技術に関するプログラムを取り込んだ高等学校である (図 20)。コミュニケーション、デザイン、工芸 (図 21)、IT 技術、自動車技術 (図 22)、電気、建築 (図 23)、配管 (図 24) などの多彩なコースプログラムが展開されており、ヴィルギンスカ高校に並ぶ職業教育カリキュラムによる学校である。聴覚障害生徒だけでなく、自閉症や知的障害のある生徒も受け入れており、特別のプログラム (Gymnasiesärskolan) (図 25) も用意している。上記の高校と同じく聴覚障害生徒のセ



図 21. 工芸プログラム

クションを備えていることもあって、校内のスタッフの多くが手話に精通している。高大連携では、ガイダンスやカウンセリングを担当するスタッフが常勤して個々の生徒の進学

相談をうけつけて、また毎日の授業に関して担当教員とコラボレーションしている。



図 2 2 . 自動車技術プログラム



図 2 3 . 建築プログラム



52 図 2 4 . 配管プログラム



図 2 5 . 特別プログラム

この高校からも大学進学を希望する学生はいるが、校長とのインタビューでは生徒の生活環境や学力の問題から、実際に進学可能になる生徒の数は理論教育を主軸とする学校に比較すればかなり少ないとのことであった。そのため、高大の連携というよりは実際の職業生活への移行プログラムにかなりのエネルギーが注がれている傾向が伺えた。ただ、ス

ウェーデンにおける個人の権利の平等性という観点から、進学希望者に必要な支援ができるようにガイダンスやカウンセリングが用意されており、実際に活用されている。また、ロボット科学の分野や携帯電話の部品に関するプログラミングに関してオレブロ大学との連携プログラムを開設しており、生徒が実際にオレブロ大学の工業デザインのラボや技術部門の研究室に数週間通って、大学生と共同での研究（学習）に取り組むということが試みられている。